

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401540		
法人名	有限会社 北 邦		
事業所名	グループホームさらさの杜		
所在地	函館市安浦町364番地2		
自己評価作成日	平成25年3月19日	評価結果市町村受理日	平成25年4月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401540-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階		
訪問調査日	平成 25年 3月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さらさの杜の理念に基づき、利用されている皆さんの立場に立った支援ができるように努めています。また、火災や自然災害等から利用者様を守るため避難訓練や日頃の備えを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームさらさの杜は昆布漁で有名な函館市(旧南茅部町)の里山に囲まれた、近くに温泉施設などがある自然豊かな地域に開設されてから7年が経過しています。庭にはホーム名の由来でもある町花のドウダンつつじ系「さらさ」が植えられ、ふっくらした可憐な赤い花は心癒す役割をしています。利用者は山菜採りや栗拾いを楽しみ、摘んで来たヨモギを混ぜたお団子を作って食すなど、自然の力を活かして五感を刺激する工夫と配慮がされています。ボランティアの受け入れや地域の方を招待してプロの歌手による歌謡ショーを開催したり、さらさ祭りを実施して地域との交流を盛んに行っています。3~4年前からは学生やヘルパー受講生等の介護実習生・体験学習の生徒の受け入れを積極的にしています。代表者・管理者・職員は個別ケアの重要性を理解し、常にどのような支援をすべきかを考えて質の高いケアサービスの提供に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つの理念を掲げ、玄関ホール・相談室・ユニット内にも掲示し、意識しながら日々のケアにあたっている。	開設当初から5つの理念を掲げ、玄関ホール・各ユニットなどホーム内の随所に掲示しています。新人研修や職員会議で話し合い、具体化して日々のケアに繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のボランティア（漁協女性部・民生委員・老人クラブ）等にて清掃・交流、近隣の2つの小学校との交流を行っている。お祭りへの参加も行っている。	町内会婦人部や更生保護団体・漁協女性部・老人クラブ等の方々が毎月清掃のボランティアで来訪し、掃除終了後は茶話会を行い交流をしています。ホームが主催する祭りや歌謡ショーにも地域の方々が数多く来て盛んに交流をしています。地域の文化祭には作品を出展しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中高生の体験実習の受入や、小学校の総合学習の場として高齢者の方々とふれあいを行っている。また、ホームヘルパー2級の施設実習を受入れ認知症介護の支援方法を伝えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、町内会・利用者の御家族・包括・の方々に出席して頂いている。日常生活・行事の報告・意見交換している。	地域包括支援センター・町内会・家族の方々が出席して年6回開催しています。事業所からの報告・外部評価結果や利用者の日々の暮らし振りを写真で報告し、出席者からの意見やアイデアをいただいたり、災害時の協力体制の呼びかけ等もしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的には地域包括支援センターの地域ケア会議に出席をし情報を共有しあっている。また、函館市の担当部署とは密に連絡をとりあい緊密な関係を築いています。	行政の各担当者・地域包括支援センターの方々と電話や直接出向いて、相談や情報交換をして連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないこととし、マニュアルを作成し、スタッフ全員が理解し、研修会議等で再確認し合っている。	ホーム独自に作り上げた身体拘束禁止マニュアルを基に、勉強会を積み重ね全職員の徹底理解を図っています。利用者の安全を確保するために、やむを得ず行う時は丁寧に説明をし、理解が得られるように努め、同意書をいただいて、安心して安全な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会でも取り上げ、虐待について学び、全スタッフが防止について周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び職員は施設内研修にて利用者の権利擁護について学び理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者及びご家族に説明し、理解・納得してから利用いただくように行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やカンファレンス時に利用者や御家族ご意見や御要望を聞き、運営に反映させている。	家族には毎年アンケート調査を実施したり、面会時・カンファレンス等で要望や意見を表出する機会を多く確保し、課題や改善点は全職員で話し合い反映されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議・職員会議を1回/月、ユニット会議は2回/月実施し、意見交換を行っている。	毎年アンケート調査を実施したり、職員会議やユニット会議で意見や要望・アイデアを聞くと共に日ごろからコミュニケーションを図り表出しやすい環境づくりに努め、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修や資格取得に関する情報を提供し、常に向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月行っており、外部研修（消防署にて）適宜に行い、資格取得についても希望に添うように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の会議や交流会の参加。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅訪問し、家族の相談を聞く・本人とコミュニケーションを取る等で信頼関係を築くことに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や直接相談にみえた時に困りごとや不安なこと、要望等を伺い受け止めながら信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じ、本人家族の要望を確認しながらグループホーム入居に限らず、他施設の紹介や他の事業所と連絡をとり紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬う気持ちを忘れずに、昔のことを教えて頂いたり、分からないことを聞いたりスタッフ・利用者同士のいい関係を築けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の生活の様子、体調の報告をし、御家族も利用者も安心して生活して頂ける様な話し合いを設け、時には協力を得る等のいい関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れない様、御家族に協力してもらい支援に努めている。	地域に住んでいる友人や知人の訪問時には会話を楽しみ、2ヶ月毎に馴染みの理美容院の訪問があります。職員は手紙の代筆・電話の取次ぎ等を行い、毎月友人から絵手紙が届く利用者もいて、これまでの継続的な交流が途切れない様に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中での作業の時に、能力ややり方の違いで小さなトラブルは生じるもスタッフがフォローし、お互いに気分を害さない様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関や他施設へ移動しても、必要があれば連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で希望・意向を確認し、思いに添える様に努めている。	日頃の関わりの中の言葉や表情・生活歴・家族からの情報を参考に、個別ケアを大切にしながら利用者の思いを汲み取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族・関係者から情報収集し個々の生活状況を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりの中で、記録・申し送り等をし、9名の利用者の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、御本人・御家族の要望を聞き、スタッフの意見も加え、より良い生活を送れるような介護計画を作成している。	利用者や家族に思いや意見を聞き、ユニット会議・全体会議でアセスメントを含めたモニタリング・カンファレンスを行い現状に即した介護計画を作成しています。計画はプラン毎に番号を付け日々の記録に連動させ見直しに活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録を業務前にチェックし様子を把握する等、各自で情報収集を行い、あわせて申し送りをして情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人・御家族の要望があれば、外出ができるような柔軟な支援ができるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の地域とのコミュニケーションをとり緊急時には支援していただけるよう働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回定期受診をし、医療機関と連携を図り適切な医療が受けられるよう支援している。	毎週医師と看護師による往診があり健康管理をしています。地域の医療機関への定期受診には職員が同行しています。状況に応じて家族と職員が協力して通院介助し、医師と密に情報交換を行って適切な医療が受けられる様に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調異常時は、病院の看護師と連携をとり主治医の指示が得られるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時やその時に備えて円滑な関係が築ける様取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人・御家族の意見を尊重しながら出来る限りの支援ができるよう取り組んでいる。	利用開始時に重度化や終末期について方針を説明し理解を得ています。職員の研修や勉強会を行ったり、医療機関・ホーム間で話し合いを繰り返すことで対応方針の共有を図っていますが、指針の作成には至っていません。	重度化や終末期におけるホームの対応を明確にし、文章化した指針の作成や同意書の早期取り組みに期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や研修会等で定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行ったり、地域との連携が取れるよう努めている。	消防署の指導の下、地域住民も参加して年2回火災・自然災害時の避難訓練・避難経路の確認を実施し、設備や消火器の使い方等の訓練も同時に行っています。停電に備えてホーム独自で炊飯訓練も実施しています。食料・飲料水（タンクにて備蓄）・オムツ等を備蓄し、地域との協力体制も整えています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応には常に気を配り、その人らしい暮らしができるよう努めている。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、言葉遣いや接遇に配慮しています。職員間でも常に誇りやプライバシーを損ねていないかチェックをし合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意見は常に確認し、自己決定できるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人のペースや希望は出来る限り大切にして支援出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好きな服を着ていただいたり、その人らしさを尊重できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、美味しく召し上がっていただくよう努めている。間食作りや食器拭きなど利用者と一緒にやっている。	献立は利用者が希望する三平汁やごっこ汁・山菜料理など馴染みの食べ物や季節の料理を取り入れています。利用者は個々の得意を活かし食材の下準備を職員と一緒にやり、山菜や菜園で収穫した旬の新鮮な野菜類は食卓を豊かにしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量をチェックし、スタッフ全員が確認し把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛け・見守り・介助にて口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔を把握し、声掛けを行い排泄誘導している。	職員はトイレでの排泄を大切に考えて、排泄チェック表を利用して個々のパターンを把握し、動作やサインを敏感に察知して周囲に気付かれないように、さり気なく支援しトイレでの排泄に繋げています。衛生用品は利用者個々に検討し、使用軽減に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり、散歩・下肢運動・腹部マッサージを行う。排便が見られない場合は医師の指示にて下剤服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声掛けや御本人の希望にて入浴を実施している。拒否があった場合は清拭し更衣を行っている。	声掛けに配慮しつつ週2回以上の入浴を支援しています。入浴を拒む利用者には無理をせず、清拭と部分浴・更衣で清潔を保つように対応しています。個人の希望によって近くの温泉を利用する事もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の希望にて居室で休んで頂く。1回/W寝具の交換・洗濯の実施。室温に応じて寝具の調節を行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬については薬情を確認している。服薬時は見守り・口腔内の確認をしている。バイタルや顔色等の確認も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩・手伝い・レク等を行い気分転換を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人が買い物を希望される時は、一緒に出掛けスムーズに買い物ができる様にアドバイスやお手伝い、又気分転換が出来る様な支援をしている。農園を育て収穫に向け草取りや成長の楽しみ等感じている。	体調や天候に合わせて散歩や菜園作業・山菜採り・栗拾い等を日常的に行っています。花見・紅葉狩り等季節ごとの外出行事を企画し、お弁当を持って出かけピクニック気分を味わったり、外食をして気分転換をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を希望される方はお小遣い帳等を利用し把握したり、他の方は管理を一部支援のもとで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が希望される時は、御家族に電話や手紙のやり取りの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、掃除はもちろん利用しやすい配置・湿度・光の調整等も行っている。	ホーム全体がゆったりとした造りになっていて、居間の大きな窓や天窓から程よく光が入り、温度や湿度は天井に大型空調装置が設置され、しっかりと管理されています。居間には4畳ほどの「こあがり」や数個のソファを配置し、利用者は思い思いの場所で寛いでいます。ホーム内の装飾は季節感を醸し出す工夫がされ、玄関横のコーナーには火鉢や石臼と杵がさり気なくディスプレイされていて、五感刺激への配慮がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他利用者とは過ごしたり、一人になりゆっくりとソファ等を利用し両下肢拳上や横になったりと思いたい思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自分の好みの配置や写真や花などを飾り落ち着き、安らげる空間を作らせてもらっている。	居室はゆったりとした広さで、クローゼットと洗面化粧台が備え付けられています。和室が2部屋あり利用者は自分の好みに合わせて洋室・和室どちらかを選んでいきます。使い慣れた家具やベット・家族の写真・思い出の品・仏壇などを持ち込み、温かい雰囲気の中で暮らせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にある手すりや歩行訓練やトイレにて立ち上がりのためにレバー等を設置している。又、自室前に名前やトイレの案内版なども工夫している。		